



おぢかこうみんかんだより

第160号 令和2年2月10日発行

今年はロケット！「科学実験教室」



2月9日(日)、総合センター市民ホールにおいておぢか山学校「科学実験教室」が開催されました。

長崎大学から2名の講師が来町し、私たちにとって身近な存在である「水」をテーマにした様々な実験が行われました。表面張力など水の性質を利用した実験を、講師の説明を受けながら実際に見ることで、参加者は水についてわかりやすく学ぶことができました。

また、今回の目玉である水素ロケットが発射した際には参加者からは大きな歓声が上がりました。

今年で3回目となる科学実験教室ですが、今回も講師、参加者ともに充実した時間を過ごされていました。

令和元年度最後の山学校は・・・凧作り&凧あげをします！

[日時] 2月16日(日) 10:10~12:00

[会場] 小値賀町立図書館 多目的室

(図書館は10時に開館です。)

[用意するもの]

時間があれば凧に絵や文字を入れますので、筆や絵の具をご用意ください。(こちらでも準備します。)

親子での参加も歓迎します。



お買い物がさらにお得に?! キャッシュレス使い方講座

[日時] 2月20日(木) 19:00~20:00

[場所] 離島開発総合センター 1階市民ホール

[主催] 小値賀町役場産業振興課商工観光係

[共催] 小値賀町公民館

[協力] 小値賀町商工会

昨年10月より開始された「キャッシュレス・ポイント還元事業」。みなさんはご活用されているでしょうか。「現金以外使ったことない!」「小値賀でキャッシュレスに対応しているお店はあるの?」等不安や疑問をお持ちの方も多いと思います。

今回は町外講師による分かりやすい説明の他、質疑応答や町内のキャッシュレス使用可能店舗の情報などがありますので、この機会にお得な情報を正しく身につけましょう!

[お申込み先] 小値賀町役場産業振興課商工観光係(56-3111) または小値賀町公民館(56-3838) までご連絡ください!



・2月の将棋・囲碁クラブの開催日は23日(日)午後2時からです。



~図書館からのご案内~



3.11を忘れない! ~震災復興パネル展~

●展示期間 令和2年2月27日 ~ 3月11日

●展示場所 小値賀町立図書館(多目的室)

●開館時間 10時 ~ 18時

宮城県から借用した震災復興パネル展と合わせて、「山本館長の東北震災支援研修報告」(写真と文)の展示も行います。

お問い合わせ: 小値賀町立図書館(☎56-2711)

素敵な「しおり」ができました!

1月4日に「しおり作り教室」を開催しました。年明けすぐの開催だったためか、参加者は5名と少なかったのですが、逆にしおりに使う材料選びの際には、慌てることなくゆっくりと選ぶことができていました。皆さん夢中になるあまり、つい時間を忘れてしまったのか、2時間~3時間という時間をかけて制作していました。子どもたちにとっては、細かい貼り付け作業が難しかったようです。



◆◆美味しくできました!! 「シフォンサンド」◆◆

8年ぶりに開催した、大人向けお菓子作り教室。ほとんどの方が初めての参加でしたが、皆さん日頃から料理をし慣れているためか、思わず「さすが!!」との言葉が出てくる程、手際良く分担して作業をされていました。

生クリームのデコレーションを各自で行った後は試食タイム。終了予定時間を大幅に短縮して完成した「シフォンサンド」を試食しつつ、感想を話したりしながら、日頃の忙しさを忘れてゆっくりとお茶の時間を楽しまれたようで、「次の開催はいつ?」「又参加したい」との声がでるほどでした。

弾力がありつつ、きめ細やかでしっとりとしたシフォンケーキは、バターを使用しないので、何個でも食べられるほどの美味しさでした!!



遊遊句抄

1月【兼題】初日(はっひ)書初(かきぞめ)

寒雀(かんすずめ)

書初や兄弟筆を順々に	初日の出爺帰ろうよ右左	サフサと書けぬ書初め筆無精	山々の陰ふちどるや初日影	陽だまりを踏んで遊ぶや寒雀	初日受く背筋伸ばして初勤務	筆始新たな筆に染みる墨	初日みて終活やめたケセラセラ	柏手の中にあぶる初日かな	かして どの顔も吉書に向かふ真顔かな	海に座す島を言祝ぎ初日さす	老いてこそ遊び生きたき寒雀	初日拜凡夫も古希の人となり	書初や尖りの取れぬ吾が書体	墓碑銘は虫砂男で頼む筆始め	牧の牛眸に写る初日かな	吾が地にも神の島あり初日の出	チャボの餌待ちて群がる寒雀	すりこみし支那の墨の香筆始め	あたらしく風と波音初日待つ	野崎よ昇りし初日窓に受け	寒雀雨の繁みを鳴き渡る
百笑	増円	小梅	利石	一穂	月歩	値賀助	虫砂男	紫紅	香松	松月											

賢明さんが懸命に語る小値賀の旧所名所ばなし

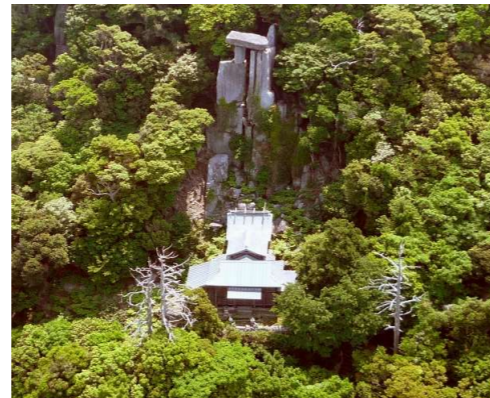
第5話 神嶋神社(その1) (前方郷相津地区・野崎郷)

古い時代のお話から順に紹介していますが、今回は「古代」と呼ばれる時代のお話です。第4話で紹介した神方古墳が造られた「古墳時代」に続く時代で、おおよそ6世紀末から12世紀末までを指します。時代区分では飛鳥、奈良、平安と3つの時代にまたがります。古代の前半部分といえる、7・8世紀頃の我が国の様子を見てみると、大陸から朝鮮半島を経由して、仏教が伝わり(538年、552年伝来の2説あり)、それまでのアミノズム(生物や無機物など、すべてのものに靈魂が宿るという考え)や祖霊信仰に基づいて築かれてきた古墳は次第に数を減らし、替わって寺院の建立が進むなど、仏教の信仰が根付き始めました。また、中国の唐の国の律令を参考に、日本史上はじめてとなる律(刑罰法)と令(行政法)が揃った大宝律令(701年)が制定されるなど、律令国家としての姿が整いはじめた時代でもあります。

では、当時の小値賀を含む五島列島の人の暮らしはどのようなものだったのでしょうか。実はこの時期は五島列島にとって「闇の時代」と言っても過言ではなく、ほとんどの地域の様子がわかっていません。その理由は遺跡をはじめとする歴史資料の少なさが原因しています。五島列島全体では300箇所を超える豊富な数の遺跡が確認されていますが、そのなかで古代に年代を求めることができる遺跡は、わずか9箇所しか確認されていないのです。本町も例外ではなく、この時期の遺跡の数は少なく、また住居跡など、しっかりとした生活痕跡はこれまでに確認されていません。このようななか、本町の古代の姿を知るうえで鍵となるものが、神嶋(こうじま)神社です。社は小値賀島の前方郷相津地区近浦と野崎島の北端の山中にあり、近浦の社を地ノ神嶋神社、野崎島を沖ノ神嶋神社と呼びます。神嶋神社に祀られる神様は3柱(神)あり、主祭神は鴨分一速王(かもわけいちはやのおう)、脇祭神が十城別王(とぎわけのおう)、七郎氏広王(しちろうじひろのおう)です。なお、十城別王は平戸島の南端の志々伎神社の主祭神、七郎氏広王はかつて平戸島の北部にあった七郎宮(現在は亀岡神社の合祀)の主祭神として祀られています。

3柱はもともとは武人(軍人やいくさびとのこと)であったと云われ、第十四代仲哀天皇の後である、神功皇后の三韓征伐に出征し、大きな活躍をしたと伝わります。三韓征伐とは『日本書紀』や『古事記』に記載されているもので、神功皇后が新羅(朝鮮にあった国)を攻めて降伏させたというものです。時期は3世紀頃の話と考えられます。新羅を平定し、我が国に凱旋した神功皇后は、戦いで功績を挙げた鴨分一速王、十城別王、七郎氏広王の3名に西海地域の守護を命じ、小値賀地域には鴨分一速王、平戸地域には十城別王、七郎氏広王が駐在することとなりました。

後に3名は神として祀られ、それぞれの地には社が建てられました。神嶋神社は創建当初、一つの社でしたが、ある時期を境に近浦と野崎島に分けられたと伝わっています。どちらがもともとの社であったかのかわかっていませんが、両社それぞれに慶雲元年(704)年に分けられたということだけが共通して伝わっています。(第6話に続く)(文責:教育委員会 平田賢明)



沖ノ神嶋神社と王位石

※この連載を読んで「小値賀の歴史に興味を持った。」という声を聞きました。今後も、乞うご期待!!

小値賀中学校の応援歌

ある慰労会の席でのことです。司会者に促され、小値賀中学校の応援歌を歌いました。みなさんも良かったら、一緒にどうぞ・・・。(^^♪

値賀の島 気は澄み渡る原頭に 肅然として集いたる
値中生徒の八百は 鍛えし技を示さんと 決意は眉宇に
あふれたり ああ若人の血は踊り ああ若人の腕は鳴る
我らはたてり 我らはたてり

小値賀 小値賀 小値賀 我らが小値賀

※原頭(げんとう)→のはら ※眉宇(びう)→まゆのあたり

飲んだ勢いで久しぶりに歌ったのに、すらすらと歌詞が出てきたのには自分でも驚きました。アルコールで脳が活性化したのでしょうか。(アヨ? なーんのぞげんなこつんあもんな。)ますます気分が良くなったのは、歌のせい? それとも酒のせい?

「値中生徒の八百は」と聞いて若い方は驚かれるかもしれません。「ホントかいな?」と疑いたくなる数字ですが、これがなんとホントなんです。私の同学年が248名ですから、3学年合わせると八百名近い生徒が現にいたわけです。(50年前)私等よりいくつか上の学年は、300名を超えていたらしいので、小値賀中学校は県内でも有数のマンモス校だったのでしょう。(ハオー。ほんなこつ、ぞげんも子どものどけおったっちゃろかい・・・?)

八百という数字は、「八百八町」「八百八寺」「八百八橋」「うそ八百」などで使われるように、とてもたくさんという意味で使われます。加えて漢数字の八は、末広がりなので縁起のいい数字です。応援歌の歌詞としても威勢がいいし、言葉のリズムもぴったりです。「七百」でもおかしいし「九百」でもしっくりきません。やはり「値中生徒の八百は」と歌うのが一番合いそうです。

ところで、現在の小値賀中学校の全校生徒数は、37名です。中学生は今でも、この応援歌を歌う機会があるのでしょうか。歌うとしたら、「値中生徒の八百は」のところはどんな風に歌うのでしょうか。「値中生徒の四十は」では、さみしすぎるでしょう。

願わくば、ぜひそのままの歌詞で歌ってほしいものです。威勢よく「値中生徒の八百は」と・・・。「じいちゃん、ばあちゃんの子どもの頃は、こんなに栄えちよったなあ。」と誇りにしてほしいし、「今は少人数でも、ガンバロウ。」と自らを鼓舞してほしいと思います。誇りと鼓舞・・・それが応援歌ですから。

慰労会で値中応援歌を歌った私は、中学時代に戻った気分で心が高揚し(ホントは酔っただけ)、司会の方が止めるのも振り払って「小値賀中学校第二応援歌」をも歌ってしまいました。

♪ 人に自由の翼あり 静まり返る大空の・・・(^^♪

校歌もいいけど、応援歌もイイモンです。元気が出ます。

さすがに、「勝ちます踊り」は遠慮しときました・・・。(笑)

※「勝ちます踊り」は、60代半ばの世代しか知らないようですね。



昭和四五年



前号(1月号)の続き・・・町民のみなさんの「新年の抱負など」

○島の郷土料理をひとつでも自信をもって作れるようになる。(女 36歳)

○国外旅行へ行く。(女 27歳) ○月に200km走る。(男 45歳)

※早いもので今年もひと月経ちました。夢や抱負は忘れんじ、ぎばんなされ

